

議会ウォッチ



ココに注目!

東峰村議会4年間の軌跡

P2

いずみ館空調全面改修実施へ《定例会トピックス》

P4

ここが聞きたい《一般質問》

P6

表紙 / とどけヒマワリの種(人権の花運動)

議会ウォッチ特集ページで振り返る

東峰村議会 4年間の軌跡



令和7年1月号（77号）



11月7日 いずみ館（5名）
11月8日 ほうしゅ楽舎（20名）

村の“これから”を考える
議会報告会

令和6年度
11月5日～8日に議員報告会を開催しました。平成29年の災害以降開催できずにいましたが、今回、4会場で開催しました。今後の議会活動に対する皆さんの有意義なご意見（P4～5）をいただき、議員一同感謝申し上げます。



11月5日 小石原公民館（6名）
11月6日 せせらぎ館（7名）

令和6年7月号（75号）

6月定例会トピックス

年度毎の還付未済額（円）

年度	件数	金額
平成20	2	5,000
21	0	0
22	14	50,690
23	20	64,100
24	19	127,670
25	24	73,560
26	18	88,990
27	12	73,430
28	0	0
29	0	0
30	7	39,490
31	35	180,830
令和2	20	80,890
3	15	59,930
4	63	295,020

※期間別高齢者医療制度は平成20年から開始

ここに注目！

後期高齢者医療保険料 過徴納金問題
丁寧な対応と再発防止を！

宝珠山駅一部工事開始へ

宝珠山駅一部工事開始へ

宝珠山駅一部工事開始へ

令和4年7月号（67号）

東峰見聞録 新ほうしゅ楽舎建設
観光交流と防災の拠点を
あわせた複合施設へ

令和4年度予算に約3億4900万円（工事費及び間接費を含む）を計上し、可決した新ほうしゅ楽舎建設事業。今年7月には建設工事が開始される見込みです。建設から運用開始まで、議会としても事業進捗を注視していきます。
現在、議会で説明が行われている内容を質問形式で説明します。



完成イメージ

どのような施設内容となりますか？

施設内容は左のとおりです。

区分	規模	概要
多目的室	117㎡	研修や講座、地域の法事などの多様な使い方のスペース。多目的室として活用される見込み。
食堂スペース	62.7㎡	地域の農産物、産物加工品などを活用した、地産地消の場として活用される見込み。
交流スペース	59.8㎡	研修や講座、地域の法事などの多様な使い方のスペース。多目的室として活用される見込み。
交流スペース	181.0㎡	研修や講座、地域の法事などの多様な使い方のスペース。多目的室として活用される見込み。
交流スペース	65.36㎡	研修や講座、地域の法事などの多様な使い方のスペース。多目的室として活用される見込み。

今期（令和4年5月～現在）議会を振り返って

今期議会は、アフターコロナの時期から始まりました。コロナ禍を乗り越える中で、村内では新たな施設の開設が進められる一方、平成29年災害を振り返り、その経験と教訓を後世に伝えるための企画「その声を後世に紡ぎたい」を開始しました。しかし、その連載の途中で、東峰村は再び大きな災害に見舞われることとなりました。

災害復旧工事と地域振興事業が同時に進む中、これからの東峰村に何が必要なのかについて、議会では多くの議論を重ねてきました。

令和5年からは、議員定数の在り方についての調査を開始し、大正大学の江藤教授をアドバイザーに迎え、「議会力アップ」の取り組みが本格的に始まりました。今期議会の特徴でもある常任委員会の活動は一層活発となり、1年から数年にわたって取り組んできた政策サイクルについても、単なる提言にとどまらず、「政策実現」を意識した議会活動へと発展してきました。

今後も、この「議会力アップ」の取り組みを次期議会へ着実に引き継ぎ、村民福祉のさらなる向上に向けて、議会としての役割を果たしてまいります。

令和7年7月号（79号）

大行司駅のバリアフリー化に関する協議経過

②バリアフリー化を中心とした協議

令和6年9月12日 全員協議会
村より「臨時昇降機設置のまちづくり条例（案）」に基づきバリアフリー化が必要であることから、「スロープカー設置案」の提案があった。

令和6年10月25日 全員協議会
村は「スロープカー設置案」について再提案。代替案についても議会に意見を求めた。

令和6年11月26日 全員協議会
議会から、「臨時昇降機設置のまちづくり条例（案）」の適用要件やこれまでのバリアフリー検討経路に関する資料を担当課に提出。

令和7年1月8日 全員協議会
担当課より大行司バリアフリー検討比較について説明。

令和7年2月10日 全員協議会
社会福祉協議会や分会の早期予算執行が必要であるため大行司駅階段の設置廃止工事への予算執行を承認する。

令和7年5月1日 全員協議会
村より、5条（階段昇降機設置、傾斜路整備工事、車いす用階段ロープの整備、スロープカー設置、エレベーター設置）の提案。全員で協議後、採決。賛成多数により、採決することに決定。

令和7年5月29日 全員協議会
村より、バリアフリー設備として「車いす用階段昇降機」設置の提案。全員で協議後、採決。賛成多数により、採決することに決定。

①スロープカーを中心とした協議

令和6年3月議会
多摩市議会において、説明が不十分だった「車いす用階段昇降機」は、議会と協議のうえ進める」とことを経路経緯で、村長に確認を行い、当初予算は原案通り可決。

令和6年4月～5月 経済常任委員会
調査・研究をはじめ計6回の協議を重ねた。

令和6年5月17日 全員協議会
経済常任委員会として「総合的に判断した中で、スロープカーは設置する方が望ましいのではないか」という方向性を示す。

令和6年7月10日、8月7日 全員協議会
担当課からの説明後、全員で協議を行い採決。賛成多数により、「大行司駅階段昇降機」設置に関する全ての予算執行を認めない」という結論。

令和6年7月10日、8月7日 全員協議会
担当課からの説明後、全員で協議を行い採決。賛成多数により、「大行司駅階段昇降機」設置に関する全ての予算執行を認めない」という結論。

スロープカーを設置しない方向へ

大行司駅への車いす用階段昇降機設置関係予算

項目	予算額(千円)
階段昇降機	27,000
車いす用階段昇降機設置工事(仮)	40,150
傾斜路整備(仮)・駐車場整備	54,511
エレベーター設置工事(仮)	121,661

令和7年4月号（78号）

議会力アップへ向けて

議員定数調査特別委員会報告

住民の多様な意見を活かすために
議員定数は現状維持で決定

1月20日開催の議員定数調査特別委員会報告。議員定数の現状維持が決定された。

定数削減の理由（定数維持の課題）

①人口減少への対応
東峰村の人口が16年前の2,800人から1,700人を切るとする時に、当時の議員定数でいいのか。当時の人口は約2,800人。現在の人口は約1,700人。その4年後には10名になった。1年度定数削減をしながら、住民アンケートでも考える。最低1名の削減は提案をしなければ、住民の納得は得られない。

②選挙時の定員割れ
現状維持では、次の選挙以降で定員割れが起きる。定員割れした場合は、必ず定数削減が必要。

定数維持の理由（定数削減の課題）

①議会の機能
住民の声を聴く機能、行政の監視、政策サイクル、政策推進を行うためには人の力（人財）が必要。

②議員の多様性
多様な意見が出にくくなる（議員の偏り）、議決の遅れが顕著で、少数の意見で決定する可能性がある。

③行政改革と異なる視点
議員定数を行政改革の観点で議論すべきではない。

④常任委員会の適正人数
2つの常任委員会が維持できると考えると、活発で多様な意見が出る。1年度定数削減をしながら、住民の納得は得られない。

⑤議員の負担
議員の負担が大きくなる。いくつも兼任をしながらできない。

⑥合併前の地区数との比較
旧小石原村では議員8名だったが、合併後の地区数は、当時より倍以上に増えているので、多様な意見を聴くことが難しい。

⑦新人の立候補
新人の方が立候補しづらい。

⑧定数を削減した議員の意見
定数削減を行った議員では、削減したことへの後悔や悔やむ方が多いとの意見もある。

⑨定数が奇数または偶数の場合
奇数の場合、議員の意見が出ない。その場合、奇数が多い方が、偶数よりも話し合いから現状維持がベター。

⑩委員会のあり方
その議員定数になった時に協議をして考えるべき。議員定数を決める中で、委員会のあり方を考えるのは難しい。

今後の議員定数を取り巻く課題

①アンケートで「削減すべきだ」という意見を認識すべき。

②今行っている議員力アップの取り組みをより一層の充実を図っていくことが大切。

③「議員定数を減らす」という意見の方たちに納得してもらえよう議員活動の見える化をしていく必要がある。

④人口がさらに減少した場合、再度議員定数の削減を検討しないといけない。

⑤次の選挙で無期決りや定数削減することが起きる等、議員の切り手問題がある。次の選挙までに、しっかりと住民定数の10人の議会を維持していくための努力も議会として必要。新人が立候補準備をしやすくするために、出席する方は早めに宣言すること、議員の仕事や役割を学ぶ、伝える場を作る必要もある。

議員定数に係る投票の結果

現状維持 8名 1名減 2名

現状維持を最終判断とする

今後議員力アップを継続します！

①議会基本条例の再調査（議会運営委員会）
②政策サイクルの形成（総務・経済常任委員会）
③議会事務局の事務体制のあり方（議会運営委員会）

第7回定例会（12月）議決結果一覧表

区 分	審議結果	議 案 一 覧	議 案 の 主 な 内 容	賛 成
条 例	可 決	東峰村特別職の職員の給与等に関する条例及び東峰村議会の議員の報酬及び費用弁償等に関する条例の一部を改正する条例の制定について	令和7年11月25日付 東峰村特別職報酬等審議会の答申を受け、東峰村特別職の職員の給与等に関する条例及び東峰村議会の議員の報酬及び費用弁償等に関する条例の一部を改正する。 改正の主な内容： ①（特別職）期末手当2.80月分→2.825月分 （0.025月分引上げ）	全 会 一 致
	可 決	東峰村一般職の職員の給与に関する条例及び東峰村一般職の任期付職員の採用等に関する条例の一部を改正する条例の制定について	人事院勧告に準じて、東峰村一般職の職員の給与に関する条例及び東峰村一般職の任期付職員の採用等に関する条例の一部を改正する。 改正の主な内容： ①民間給与との格差（3.62％）を解消するため、若年層に重点を置きつつ、その他の職員も官民格差是正のため給料表を引上げ改定 ②（一般職）期末勤勉手当4.60月分→4.65月分 （0.05月分引上げ） ③（再任用職員）期末勤勉手当2.40月分→2.45月分 （0.05月分引上げ） ④（特定任期付職員）期末手当3.65月分→3.70月分 （0.05月分引上げ）	
	可 決	東峰村過疎地域持続的発展計画（令和3年度～令和7年度）の変更について	計画中の「7 子育て環境の確保、高齢者等の保健及び福祉の向上及び増進」及び「14 過疎地域持続的発展特別事業（再掲）」中の事業内容から「生活支援拠点事業整備事業」を削除する。 計画中の「9 教育の振興」の事業内容に「集会施設整備事業」を追記する。	
補 正 予 算	承認	専決処分の承認を求めることについて（専決第4号）：令和7年度東峰村一般会計歳入歳出補正予算（第4号）		
	可 決	令和7年度東峰村一般会計歳入歳出補正予算（第5号）（4ページ）		
	可 決	令和7年度東峰村国民健康保険事業特別会計歳入歳出補正予算（第1号）		
そ の 他	選挙	福岡県介護保険広域連合議会議員の選挙について	広域連合議会議員の眞田秀樹氏が令和7年10月19日をもって任期満了となり、広域連合規約第8条の規定により、関係市町村の議会の議員及び長のうちから1人を選挙する。 当選人： 東峰村長 眞田秀樹	

12月定例会は12月9日から11日までの会期で開催しました。
8人の議員が一般質問をし、専決処分の承認1件、条例の一部改正2件、計画の変更1件、補正予算2件、介護保険広域連合議員選挙1件、合計7件を慎重審議し、原案通り可決しました。



いずみ館の空調設備を全面改修実施へ
停電時もエアコンが利用可能に

令和6年から保健福祉センターいずみ館で経年劣化による空調設備の故障が相次いで発生していました。12月定例会にて、空調設備工事費および非常用発電機設置費約1億2000万円を含む補正予算を可決成立しました。

今回新たに設置する非常用発電機により、停電時でもエアコンが稼働できるようになります。また、ボランティア室等の小部屋には家庭用エアコンが設置されるため、利便性が向上します。

工事については、空調設備は5、6月を予定。発電機は発注後5、6ヶ月の製作期間を要する



非常用発電機の新設により、停電時も空調利用が可能に

ボランティア室等の小部屋には家庭用エアコンが設置され、利便性向上へ

め、8月中旬に工事が完了する計画となっています。工事期間中の利用等については、住民福祉課からのお知らせをご確認ください。



集落センターの
図書コーナー



七ヶ宿町(宮城県)の図書館

議員 東峰村独自の森林整備計画が必要であると思うが、村長



伐採された山林

議員 旧朝倉郡内では、合併前から杷木町らくゆう館、朝倉町民センター、めくばーる三輪、夜須町コスモスプラザと、図書館が整備されていた。「公民館図書の実」で、東峰村に住んでも

村長 現状の図書スペースは十分と認識しており、今後は全体構想の中で考えていく。

村長 総合計画策定委員会で協議する中で、経費面を考え、「公民館図書の充実」になった。

議員 総合計画作成時、各種団体ヒアリングで「図書館整備」の要望があったが、計画では「公民館図書の充実」に変わっている。その経緯は。

村長 らうための環境づくりが可能か。村の機能として、行政、福祉、教育、産業、観光の拠点計画の中で考えていく。

議員 東峰村の林業の大きな問題として以下のものがある。
①高齢化に伴う従事者の減少
②急峻のため作業効率が悪く、生産性が低い
③所有者不明林が増え、適切な管理や手入れが行き届かない状況
対応について、村長の考えは。

議員 令和6年決算では、意向調査に約500万円、施業判断に約644万円、合計1144万円の委託料支出がある。どのような調査・判断が行われているのか。
農林建設課長 毎年同じ取り組みを行っている。関係者と議論を重ね、委託内容について見直し等の検討を考えていく。



樋口 朗 議員

総合計画で公民館図書の充実となった経緯は
——村長 図書館整備ではなく蔵書数の充実を図る



黒川 隆康 議員

村独自の森林整備計画が必要では
——村長 実態に即した計画を考えていく

ここが聞きたい!

一般質問

令和7年東峰村議会第7回(12月)定例会

質問順	議員名	質問事項(色付きは記載事項)	ページ
1	ひぐち あきら 樋口 朗	図書館の整備について 特別定額給付金について ホームページの入札情報について	P7
2	くろかわ たかやす 黒川 隆康	森林等整備について 森林環境譲与税について	P7
3	たかくら みきえ 高倉 美紀恵	一人暮らしの村民の見守りについて 認知機能が低下していると思われる高齢者の見守りについて 災害に強い村作りの推進について	P8
4	ささき たかし 佐々木 孝	東峰村就業体験について 地域おこし協力隊インターンについて	P8
5	たかはし ひろのぶ 高橋 弘展	アピアランス(外見)ケアについて マイナ救急の運用について 村長選挙立候補予定者説明会の実施時期について	P9
6	わだ まさゆき 和田 将幸	東峰村の農業振興について	
7	かじわら はくお 梶原 伯夫	東峰村のコメ中心の持続可能な農業について	
8	ささき のりよし 佐々木 紀嘉	第三セクター株式会社宝珠山ふるさと村について	P9

一般質問の詳細は
議事録をチェック!!





高倉 美紀恵 議員

一人暮らし高齢者の見守りの取組は ——住民福祉課長 集落支援員の訪問とサスケの啓発を実施

議員 村の50歳以上の一人暮らしの方は、男性83名、女性103名いる。昨今、異常気象で夏は熱中症、冬はヒートショック等に注意しなければならない。毎年1〜2名について、死亡後発見が遅れる事案が確認されている。亡くなった方は緊急通報生活サポートシステム「サスケ」を設置していないと思われる。

現在、サスケを利用している高齢者は何名か。希望すれば利用できるのか、利用条件を伺う。
住民福祉課長 サスケの設置台数は46件。設置条件は、基本的に65歳以上の一人暮らしの方。老衰や傷病等により発作や転倒の恐れがあることや、健康状態が不安定で日常生活において特に注意を要する方となっている。



緊急通報生活サポートシステム「サスケ」

議員 65歳以上の、持病等で日常生活に困っている人への啓発はしているのか。希望に対応できる台数はあるのか。
住民福祉課長 集落支援員が訪問時に、必要性の啓発や相談対応を行っている。現在、46台を使用している。設置ができない事態が生じないよう予算を計上している。



高橋 弘展 議員

がん患者のアピランス(外見)ケア支援は ——村長 前向きに対応していく

議員 がん治療に伴う外見の変化に対して、医学的・整容的・心理社会的支援を用いて外見の変化を補完し、苦痛を軽減するケアを「アピランスケア」という。福岡県では医療用ウィッグ等の購入費を助成する市町村への支援制度があるが、東峰村では実施しないのか。

村長 12月議会補正予算には間に合わなかったが、対応していく。

議員 筑前町では、制度開始の令和3年度に遡って補助を行っている。村の考えは。

村長 即答はできないが、必要性を検討する素地はある。



マイナ救急について

議員 救急搬送時にマイナンバーカードを活用する「マイナ救急」の運用状況は。

総務企画課長 10〜11月末までの村内救急搬送11件中4件でマイナ救急が利用された。村のマイナンバーカード普及率は97.2%、マイナ保険証登録率は国保で92.7%、後期高齢者で68%。

議員 マイナ救急の推進において、救急医療情報キットや特定健診の受診との連携を検討すべきでは。

住民福祉課長 特定健診の情報は、マイナ連携でかかりつけ医でも見られるので、ぜひ受けていただきたい。キットは、情報の更新を課として取り組んでいく。



佐々木 孝 議員

東峰村の就業体験の目的は ——総務企画課長 村行政への理解向上と志願者増につなげる

議員 8月から東峰村就業体験を始めているが、その目的は。

総務企画課長 行政の実務を経験することで、行政への理解を向上させ、職員採用試験の志願者増につなげたいという目的で実施している。

議員 体験期間が、原則2週間以内となっているが、どれくらいの効果があると考えているのか。

総務企画課長 大学の単位認定の目安が5日間以上であること、県や他自治体の制度と比較しながら設定した。2週間程度であれば、複数課の業務を経験することも可能である。

議員 受け入れ側がやりやすい体制を作っておくことが大事ではないか。



就業体験で行政に興味を持ってもらいたい

議員 高校生以上が対象なので、長期休業中の実施や大学1・2年生の優先参加を検討できないか。
村長 夏休み中の実施も検討している。学生へは早めの呼びかけも必要かと考えている。

村長 今回は、応募者の意向を優先し、体験内容を調整する対応を基本とする。次回以降、業務のプログラムを作り、体験に活かしていきたい。



佐々木 紀嘉 議員

第三セクターふるさと村の活用策は ——村長 現状の事業内容では利益を上げることは難しい

議員 宝珠山ふるさと村は、設立当初、どのような事業や活動を目的として計画されていたのか。

村長 施設管理の受託や飲食店・宿泊施設の経営をはじめ、農産物の加工販売、イベント企画等、村の振興・発展を目的とした事業展開を計画していた。

議員 当時、いぶき館のカフェレストランの来客数は、どの程度の計画だったのか。

村長 年間で約2万人と試算されていた。

議員 多数の来客を計算上見込んでおれば、合併浄化槽が55人槽ではなく、100人槽で設計しなければと思う。ほぼ毎年の赤字決算は事業計画とかい離があるのか。

村長 収入を支える予定であった



山村文化交流施設 いぶき館

たレストラン事業が開業出来なかったことが、主な要因と思われる。

議員 旧宝珠山村が想定していた第三セクターの意義を踏まえ、村として最も有効な活用策は。

村長 現状の事業内容では利益を上げることは難しい。今後は、資本金を取り崩してでも必要な投資を行い、利益として回収できる事業を考えていかなければいけないと、役員会でも認識を持っている。



立候補者が 気をつけたいこと



Q 顔見知りが多い地域で、
日常会話は選挙運動になりますか？

A. 投票を依頼する発言や支持を求める内容は、選挙期間中は選挙運動に該当します。あいさつや雑談であっても、内容には注意が必要です。

Q 集会や飲み会で、
立候補の話をしても良いですか？

A. 告示前であっても、事前運動と判断されるおそれがあります。不特定多数が集まる場での発言は慎重に行う必要があります。

Q 親戚や知人が多い場合、
応援は問題ありませんか？

A. 応援自体は可能ですが、無報酬であることが原則です。飲食の提供や金品の授受は、公職選挙法に抵触するおそれがあります。

Q 家族が選挙活動を
手伝っても良いですか？

A. 可能ですが、ビラ配布や電話かけなど、法律で認められた方法・期間に限られます。違反が候補者本人の責任となる点に注意が必要です。

Q 「昔からの付き合い」で物やサービスを受け取っても大丈夫ですか？

A. 選挙に関係して物品や便宜を受け取ることは、たとえ慣習であっても禁止されています。

Q 後援会名での活動は
自由にできますか。

A. 告示前であっても、事前運動と判断されるおそれがあります。不特定多数が集まる場での発言は慎重に行う必要があります。

Q 「応援している」とSNSに
書いてもらうのは問題ありませんか。

A. 第三者による投稿であっても、内容や方法によっては違反となる場合があります。特に未成年者の関与には注意が必要です。

Q 村の行事や地域活動への
参加は控えるべきですか。

A. 通常の参加は問題ありませんが、選挙目的と受け取られかねない言動は避け、節度ある行動が求められます。

Q 「村だから大丈夫」は通用しますか。

A. 公職選挙法は地域の規模に関係なく適用されます。「知らなかった」「昔からやっている」は理由になりません。

顔の見える関係が強い地域ほど、善意が思わぬ違反につながる場合があります。制度を正しく理解し、公正な選挙を心がけることが大切です。公職選挙法について、詳しくは東峰村選挙管理委員会（宝珠山庁舎 総務企画課内）にお尋ねください。

令和8年4月は東峰村議会議員選挙があります

村の未来を考える一歩として、立候補という選択があります

シリーズ

みなさんの身近な議会となるために

第3回
全3回

3回シリーズで議会（議員）のシゴトについてお伝えしています。
令和8年4月には、村議会議員選挙が行われます。今回は、立候補を考えたときに、必要な準備や手続きについてご紹介します。

立候補を決意した後の主な事項

- ・後援会など、選挙に向けた支援体制の検討・整備
- ・後援会を政治団体とする場合の福岡県選挙管理委員会への届出
※後援会の設置は必須ではありません。

立候補予定者説明会（令和8年3月24日予定）

告示日までの主な準備事項

- ・立候補に必要な関係書類の準備
- ・法務局への供託金（15万円）の納付
- ・選挙運動用自動車や選挙ポスター等の準備

告示（令和8年4月21日予定）

告示日に行われる主な手続き・活動

- ・選挙管理委員会へ立候補届出を行います
- ・選挙運動用腕章などの物品が交付されます
- ・選挙管理委員会が設置する掲示板に選挙ポスターを掲示します
- ・選挙運動用自動車による演説や呼びかけができます

投開票（令和8年4月26日予定）

投開票日以降に関係する主な事項

- ・選挙運動の終了
- ・開票結果の確認
- ・当選証書の受領（当選者）
- ・選挙運動費用の収支報告
- ・供託金の返還及び公費負担の請求

※ 当選した村議会議員の任期は、令和8年5月1日から始まります。

学校に寄せられてきた多様な想いを共有

旧宝珠山小学校の歴代PTA会長の方々と意見交換を行った。
意見交換会では、廃校から15年にわたり、小学校周辺の草刈り活動を継続してこられた経緯をはじめ、学

校に寄せられてきた想いや地域との関わりについて、貴重なご意見を伺った。
また、コーディネーターの西田氏とともに、廃校利活用の考え方や今後の可能性について意見を交わした。



意見交換会 11月9日
旧宝珠山小学校 歴代PTA会長会（ほうしゅ楽舎）

小さく始め、段階的に育てる施設活用の手法

視察研修のまとめとして、廃校利活用および公共施設管理の今後の方向性について意見交換を行った。
コーディネーターの西田氏からは、他自治体においても導入されている「トリアル・サウンディング」を活用し、まずは小規模な試行から利活用を進めていく手法について提案があり、

委員会として理解を深めた。
※トリアル・サウンディング
民間事業者等が、公共施設等を活用して試験的に事業や活動を行い、収益性や施設の使い勝手などを検証する取り組み。自治体にとっては、実証を通じて公共施設のさらなる有効活用を検討する機会となる。



学習会 11月10日
総務常任委員会・総務企画課（ほうしゅ楽舎）

まとめ 旧宝珠山小学校の利活用は、公共施設活用検討委員会で検討へ

総務企画課から、今年度中に公共施設活用検討委員会を開催する予定であることが報告され、旧宝珠山小学校を含む個別施設のあり方について、同委員会において検討を進めていく方向性を、総務常任委員会内で共有しました。

また、令和8年度は公共施設等総合管理計画における個別計画の策定期に当たることから、旧宝珠山小学校についても、行政機能と民間活用の両面を考慮しつつ、公共施設活用検討委員会における協議の進捗を注視していく必要があることを確認しました。

令和7年度政策サイクル「旧宝珠山小学校の利活用」 — 民間からの多様な提案を得る取組 —

廃校及び公共施設の利活用について見識を深めるため、総務省のアドバイザーを務める（株）地域科学研究所の西田稔彦氏に、視察研修や学習会のコーディネートに依頼し、10月から11月にかけて研修を実施しました。

多様な人脈を活かした低コストな施設運営



視察研修① 10月29日
旧えびの市立加久藤小学校尾八重野分校（宿泊・合宿研修施設として利活用）

同施設は、株式会社terra（テラ）が運営しており、代表者が有する多様なネットワーク（人脈）を活かすことで、設備や資材を低コストで調達し、効率的な施設運営を行っている。

利用形態も幅広く、個人宿泊に加え、大学等の合宿や長期研修など、多様なニーズに対応してい

る点が特徴である。

特に食事の質に力を入れており、利用者満足度は高い。また、宿泊者に対する後日のヒアリングを継続的に実施していることから、リピート率の向上にもつながっている。

複数事業者による運営で維持コスト低減化



視察研修② 10月30日
旧八代市立鏡西部小学校（児童福祉施設・農業法人事務所・自主運営避難所・サーモン養殖場として利活用）

八代市財産経営課では、公共施設を不動産として捉え、定期的な見学会の開催や公共不動産情報のWEB掲載などを通じて、民間による多様な利活用を促進する取り組みを行っている。

視察した旧小学校では、4つの法人・団体がそ

れぞれ施設を利用しており、施設維持費や共益費を共同で分担することで、各利用者の負担軽減が図られている。

また、利用する事業者が相互に連携したイベントを実施するなど、新たな取り組みも生まれている。

東峰村の持続可能な農業について

農業は農地を守ることから始まる

経済常任委員会では、令和5年7月から「東峰村の持続可能な農業」をテーマに、先進地視察や村内での現地調査を行い、調査・研究を進めてきました。

先進地視察では、宮崎県日之影町における公設公営の仕組みのほか、大分県国東市で省力化が見込まれる「乾田かんでん直播ちよくば」、日田市の中山間地域で18年にわたり活動が続けている農業組合法人「小野谷おのだに」を視察しました。

また、村内の現地調査では、集落協定地区21地区すべてと、既に廃止された5地区を含む計26地区を巡回し、農業の現状や課題について調査を行いました。

これらの調査結果から、10年後には小石原地区では8地区のうち7地区、宝珠山地区では13地区のうち2地区において、農業の継続が厳しくなると見込まれる状況が明らかとなりました。



用水の頭首工



農地の荒廃化



未整備の農道

見えてきた課題と村の考え

(12月定例会において、梶原伯夫委員・和田将幸委員が一般質問しました。)

① 用水の取水・維持管理

村長 河川への重機の搬入路に関しては、流れを阻害する形であれば難しい。県から必要な部分は協議していくと回答をもらっている。現状の自然流下の水路を残し活かしていく。長期的な視点で対策を考える。

② 未整備の農道

村長 村の補助事業の上限や、単独では活用できない要件など、営農の意欲を削がないような形で考え直す時期なので、検討したい。

③ 後継者・担い手の問題

村長 後継者問題は非常に悩ましいし、喫緊の課題として認識している。仕事づくり、人づくりを含め就業の視点で考えなければいけない。

④ 荒廃を防ぐための農地活用

村長 荒廃農地については、柚子をはじめ適材適所の植物を植えてもいいのではないかと。個人補助は難しいが、団体での取り組みならいろんな補助の仕方がある。

⑤ 農地バンクのあり方

村長 現在の農地バンクのあり方は、手続きが複雑で賃借の条件調整が必要なので、貸し手と借り手が利用しやすい組織体制を作らないといけない。非常に難しいがシステムづくりを模索していきたい。

その他課題

- 害獣対策
- 不在地主の農地荒廃化
- 共同作業のできる地域での組織化
- 農業法人のあり方

持続可能な村の農業に対する村長の考え

村が旗を振りながら地域と寄り添って、様々な組織化ができないと農業を続けていくことは難しいので、経済常任委員会のみならず農業委員会、農林業振興協議会等の方々と課題を共有しながら進めていきたい。

経済常任委員会として

東峰村の持続可能な農業を実現するためには、まず農地を守ることが重要であるとの認識に至りました。農地の維持・管理を起点に、村が主体となって地域や関係団体と連携し、組織化や仕組みづくりを進めていくことが不可欠であると考えます。



4年間に発行した議会ウォッチ

県広報研修を通じて見えた議会広報の課題と成果

村民に伝わる議会広報を目指して

11月7日、「戦略的広報と議会報づくり」をテーマとした県広報研修・クリニックスを受講しました。

令和4年度から広報委員5名で研修や全国町村議会議長会広報コンクルの審査を受けながら、「村民の皆さんに読んでいただける議会広報」を常に意識して紙面づくりに取り組んできました。

研修では、「誰に」「何を」「どのように伝える」「どうやってもらうのか」という問いを投げかけられ、約4年間の広報活動を振り返る機会となりました。



県広報研修

具体的には、

- ① 関心を持ってもらえる見出しや写真になっているか
 - ② 読み始めてもらえる紙面の印象になっているか
 - ③ 理解・納得してもらえる内容がそろっているか
- といった視点で自己点検を行いました。

写真を多く用いて分かりやすさを工夫してきたことや、テーマ選び、村民の皆さんに理解・納得していただける構成を意識してきたこと、特に表紙づくりに力を入れてきたことを改めて確認しました。

議会終了後、翌月発行という限られた日程での作業は大変でしたが、一定の手応えと達成感を得ることができました。

編集後記

今期4年間の議会活動を締めくくる最終号をお届けします。

コロナ禍や度重なる災害など厳しい状況の中でも、議会は村民の声に向き合い、委員会活動の充実や政策実現に向けた取り組みを重ねてきました。

次回3月定例会号は発行しないため、本号が最終号となります。これまで議会ウォッチをご愛読いただいた皆さまに感謝申し上げ、次期議会への期待を込めて結びとします。

(高橋 弘展)

議会広報特別委員	高橋 弘展
委員長	佐々木 孝
副委員長	高倉美紀恵
委員	樋口 朗
委員	和田 将幸
発行責任者	伊藤 均